

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	多くの生徒が小・中学校で何らかのつまずきを経験し問題を抱えた状態で入学しているが、本校での生活には、生徒・保護者ともに概ね良い印象を持っている。しかし、将来の具体的な目標が持てず、高校卒業という目標を漫然と持って生活している生徒が多く、学業や学校生活に関して積極的に取り組む姿勢が弱いのが現状である。保護者の子どもへの期待は大きいと推察されるが、具体的な指導援助については、保護者と子ども、学校の連携という点で今後改善していきたい点も見られる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇わかる授業、学ぶ楽しさを実感できる授業の推進を通して、基礎・基本的な学力の定着と、自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇基本的生活習慣の育成と、豊かな人間性と社会性の伸長に努める。 ◇自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。 ◇生徒一人ひとりをよく理解し、全職員の共通理解のもとに個々に応じた支援・指導を推進する。 ◇外国人生徒に対し授業がスムーズに行えるよう工夫をしていく。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、各種会議(部長会議、分掌会議、工業科会議等) ・職員連絡会(週3日実施) ・各種委員会(生徒指導、進路指導等、研究推進)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)生徒の実態に即した参加型の授業実践 (2)全職員による授業、集会時における規律指導 (3)全職員による進路指導と外部機関との連携 (4)校内巡視と登下校時の声かけ支援・指導 (5)研究推進委員会の開催と研修・情報共有	(1)学校評価・学校生活アンケートの集計結果 (2)欠席、遅刻、欠課時数の集計結果 (3)行事後のアンケート結果や迷惑調査の集計結果 (4)公開日等の保護者、外部講師のアンケート結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・生徒の実態を分析し、参加できる授業展開を工夫し、職員間で情報交換しながら改善する。 ・登下校時、授業時、集会時など様々な場面で見逃さない指導、声かけを積極的に推進する。 ・進路先の開拓とともに、職業観の育成を目指したキャリア教育関連事業を推進する。 ・職員の情報の共有化、地域・保護者との情報交流を大切にする。	① 生徒が主体的に授業に参加しているか。 ② 時間厳守の習慣や社会的なマナーが向上したか。 ③ 生徒一人ひとりにあった進路実現ができたか。 ④ 職員の共通理解を図り、組織が有効に機能したか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 成果・課題	○習熟度別・少人数授業の導入、独自プリントの作成や導入の工夫により、生徒主体のわかる楽しさを実感できる授業を実践している。 ○職員間の情報共有・共通理解により、個々の生徒の状況を踏まえた生徒支援が進みつつある。 ▲生活面は全体的に落ち着いているが、言葉使いやマナー等を社会人として求められるレベルに導くことや、自己の成長意欲の高揚は今後も課題である。 ▲新型コロナウイルスへの不安による出停や、遅刻欠席の多い生徒に対して、今後就労と学業の両立、規範意識の醸成をさらに進めていく必要がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	・ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを身に付けられる指導を検討する。 ・生徒主体の運営ができ、全校生徒が前向きに取り組めるような行事のあり方を工夫する。 ・キャリア教育の計画的推進と外部機関等と連携したガイダンス機能の充実を図る。 ・職員研修を一層充実させ、スキルアップと個々の生徒の状況に合わせた指導への意識を向上させる。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月20日(書面開催)

・定時制のある学校が減っていく中、家庭環境や境遇によって勉強がしたくても全日制の高校に行けない生徒達のためにも定時制を続けていただきたいと思います。

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。		
2 評価する領域・分野	◇教務部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導において、教員の取り組みに対し、保護者・生徒ともに肯定的に捉えている。 ・習熟度別授業、少人数指導、補充指導、補習など個々に応じた指導の評価は高い。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇基礎的・基本的な内容の充実と発展を図り、生徒の主体的な学習態度の育成に努め、自ら学び自ら考える力を育成する。 ◇生徒の実態に即した学習指導を工夫し、個に応じたきめ細かな指導に努め、学ぶ楽しさを実感できる授業展開に努める。 ◇指導内容の重点化と教材の精選を進めて、生徒の興味・関心を喚起し、成就感・達成感が得られる魅力ある授業づくりに努める。 ◇基礎的な国語力・計算力の向上を目的として、個々の目標及び習熟の程度に応じた指導による基礎・基本の向上と、「学び直し」を意識した義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るように努める。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議 ・週3回の職員連絡会 ・教務部会 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)確かな基礎学力の向上 (2)習熟度別授業、少人数授業による指導、長期休暇中の補充指導 (3)授業規律の確立	(1)生徒の理解度に即した教材と指導方法の研究。 (2)全職員の共通理解と生徒への指導の徹底。 (3)きめ細かな指導とコミュニケーションを図り、基礎学力の定着に努める。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・普通科目による工夫したプリント学習による基礎・基本的な学力と学習意欲の向上 ・習熟度別授業、少人数指導、TTの実施による生徒の実態に即した学習指導 ・「授業中に守るべきこと」に基づく授業規律の確立 ・欠課時数過多者への段階的な指導 	①授業への主体的な参加ができたか。理解しやすいか。興味・関心を引き出せたか。 ②積極的に取り組み、理解したうえで疑問を持たたか。 ③授業等の指導が成果として現れているか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>	
11 成果課題	○実習では安全教育の徹底を図り、ものづくりの心構えを学習できた。 ○資格取得に向けて取り組む姿勢が見られるようになった。 ▲新型コロナウイルス感染症不安による出席停止のため、学習指導が困難であった。 ▲自己実現へ向けての学習意欲を引き出す工夫がさらに進める必要がある。 ▲外国籍の生徒に対する指導方法の確立および、生徒の社会人として求められるコミュニケーション能力の取得に向けて、より一層の工夫が必要である。		総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力に応じた基礎学力定着のための学習指導方法と教材研究に引き続き取り組む。 ・専門教科への興味・関心を高め、目標を決めて主体的に学習に取り組む体制をつくる。 ・コミュニケーション能力を身に付けるための指導をさらに工夫する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月20日（書面開催）

・対応が難しいでしょうが、これからも必要性を感じますので、特色ある教育活動を時代に合わせて工夫して取り組んでいただきたいと思います。

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「子どもに合った生徒指導」、「マナーや規範意識を身に付けさせている」、「いじめや差別への厳しい対応」、「体罰の防止」という全ての項目で、大半の生徒および保護者から肯定的なご意見をいただいている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的生活習慣の育成を図り、授業規律の確立と生活規律の向上に努める。 ◇命の尊さや、人間としての基本的な倫理観・規範意識を体得できるように全教育活動を通して指導に努め、豊かな人間性の伸長を図る。 ◇教育相談を充実し、あらゆる機会を捉えて一人一人を正しく理解し、信頼と愛情のある指導に努めて、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・いじめ防止対策委員会、生徒指導委員会 ・職員連絡会での生徒情報交換 ・対応チームの編成	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)基本的生活習慣の確立 (2)交通・安全指導 (3)教育相談の充実	(1)学業と仕事の両立に努力し、時と場に応じた行動をとることができる。 (2)全ての命の大切さを忘れず、「4ない運動」を遵守し、交通ルール・マナーを守ることができる。 (3)不登校やいじめに適切な対応をとり、生徒が安心して学校生活を送ることができる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・基本的生活習慣の確立 ○授業規律の確立 ○式・集会指導 ○生活全般の指導 ・交通・安全指導 ○「4ない運動」の徹底 ○交通講話、薬物乱用防止講話等の実施 ・教育相談の充実 ○全職員による生徒理解 ○テストバッテリーM2+、hyper-QU、シグマ検査、迷惑調査の実施	①基本的生活習慣を身に付けさせるため、全職員が共通認識のもとで生徒指導にあたることができたか。 ②職員間での共通理解を図って、問題行動や問題の未然防止に組織的な対応をすることができたか。 ③生徒の変化を見逃さず、生徒のためを思った適切な生徒指導(教育相談)ができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒はほぼ落ち着いた生活態度で学校生活を送っている。学習のみならず、式典や集会・外部講師による講話等にも前向きな姿勢で臨もうとすることができた。 ○職員による登下校指導等を通して生徒の変化を捉えて情報を共有し、問題行動の未然防止等に努めることができた。また、職員に見守られているという生徒の安心感にもつながった。 ○生徒は、ごく一部を除けば社会人としてのマナーや社会規範、身だしなみ等についてもきちんと守って生活しようとしていることができている。今後も粘り強い指導を継続していきたい。 ▲家庭環境や学業等で悩みを抱える生徒への対応には、必要に応じて専門機関との連携を図る等、個々にあった方策を十分に考えて対応できるような取り組みを進めていきたい。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・スクールカウンセラーや臨床心理士等の協力・支援も受けながら、さらなる生徒理解に努める。 ・県の事業等も活用しながら、生徒の抱えている悩み等への解決につながるような早めの働きかけに努める。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月20日(書面開催)

・様々な思いを待った生徒を一律指導というわけにいかず、一人ひとりの実態に即した指導をしていかなければならないことを先生方が強く意識していると感じました。

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇進路渉外部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。」の問いに保護者93%、生徒83%は概ねあてはまると回答。 ・「学校は、生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている。」の問いに保護者93%、生徒88%は概ねあてはまると回答。 ・上の問に対して、生徒の回答に「わからない」が1名。保護者の回答に「わからない」が1名。「まったくあてはまらない」は生徒の回答にも保護者にも無かった。 多様化した生徒の能力や適性を把握し、適切な進路情報が必要である。 ・保護者懇談の機会などに生徒の置かれた社会的な実情を伝え、卒業後の進路実現につなげることが大切である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇早い段階から将来の自己の在り方生き方を考えさせ職業意識を高める。 ◇教科指導やホームルーム活動等を通してキャリア教育を推進する。 ◇勤労体験を通して、勤労観・職業観を育成する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・担任を中心に全職員で取り組む。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1)職業意識のための外部講師の活用 (2)キャリア教育の推進のための進路行事 (3)勤労観・職業観の育成のための勤労学生の推進 	<ul style="list-style-type: none"> (1)講話や進路行事後のアンケート (2)就労先の紹介と就労(アルバイト)状況 (3)就職希望者の内定率 (4)卒業までに進路決定 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の活用 ・進路オリエンテーション、進路ガイダンス ・進路希望調査と進路相談の充実(全学年) ・就労先の開拓と就労先の訪問 ・進路実現のための面接・履歴書指導 	<ul style="list-style-type: none"> ① 勤労観・職業観が身に付いたか。 ② 進路情報が伝わり、進路選択に役立ったか。 ③ 卒業後の進路が決定できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A (B) C D A (B) C D A B (C) D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○夏期休業中にアルバイト先を全職員で分担して訪問した。働く姿を見ることで2学期以降の学習指導や生徒指導に生かした。 ○継続してアルバイトをすることが大きな成長につながっている。勤労の推進を進めた。 △年内に進路決定の実現に向け、3者懇談で本人や保護者の希望を確認した。履歴書や面接の指導を繰り返し行い、就職内定に繋げた。専門学校にAOで合格した。 ▲落ち着いた考え、いろいろな場面に対応した行動ができるようになる。 	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> 「企業が求める生徒像」に近づくためのキャリア教育の推進や、基礎学力を定着させることでスキルを高め、コミュニケーション能力を向上させる。 	
実施年月日：令和3年1月20日(書面開催)		

II 学校関係者評価

- ・就職活動で、地元企業への就職希望の生徒が希望通り採用されている点は評価できると思います。
- ・職員の方がアルバイト先を訪問という点が、学校外の部分でも生徒を真剣に見てくれている点が伝わってきました。

(様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程

学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・健康管理・安全指導の項目については、100%の保護者、約93%の生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。非常変災時の対応についての周知が100%の保護者、約92%の生徒から「よく当てはまる」、「やや当てはまる」の評価をいただいた。昨年度より、保護者は防災意識が向上し生徒は低下している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇運動に親しみ、進んで健康に関する情報（食事・運動・休養及び睡眠）を取得し、健康で安全な生活を送る態度を育てる。 ◇自ら環境整備に取り組み、快適な学習環境を整える態度を育む。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・スクールカウンセリング ・教育相談及び懇談（三者懇談年2回、二者懇談年1回） ・職員連絡会（週3回）による生徒情報交換会 ・生徒保健委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 健康教育の推進 (2) 各種検診の実施と事後指導 (3) 学校環境の改善と美化 (4) 安全教育・防災教育	(1) 新型コロナウイルス感染症対策の指導と生徒実態調査 (2) 各種健康診断(生徒・職員)、二次検査・治療の勧告 (3) 安全点検、環境衛生各種検査、教室日常点検、年2回の大掃除の実施 (4) 事後アンケート等による結果分析	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・毎日の検温・手洗い・消毒等による感染症対策 ・健康診断の実施と治療のための受診サポート ・使用教室及び使用設備掃除と日常点検の徹底 ・「ほけんだより」の毎月発行、「命を守る訓練」、「救急法講習会」の実施	④ 生徒及び職員の生命・安全・健康を守ることができたか。 ⑤ 検診後の健康状態の把握と健康改善のサポートはできたか。 ⑥ 学習環境の整備ができたか。 ⑦ わかりやすい「ほけんだより」の発行と効果的な「命を守る訓練」、「救急法講習会」が実施できたか。	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
11 成果・課題	○感染症対策は保健指導(パワーポイント使用)などを始業式等に行い、自主的に手洗いをする生徒が増加した。休業中の健康観察カードの提出率も増加した。 ○健康診断の実施は学校医・学校歯科医と連携をとりながら実施できた。また治療の必要性を個別指導やほけんだよりに掲載した。治療勧告書をマーカーや色つきにし、見やすく工夫したこともあり受診者が各学年2人以上と昨年度より増加した。 ▲感染対策はおおむねできているが生徒の出席停止者が多い。教育相談と連携し相談活動を強化していく必要がある。	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
12 来年度に向けての改善方策案 ・健康観察の簡略化及び徹底のため、サーモカメラや体温計購入の検討をお願いしたい。 ・欠席連絡等の簡略化のためにアプリ等を利用し、連絡の徹底を図ることができるようになりたい。 ・施設消毒等の業務補助をしてくださる支援員さんを雇用していただくことで、職員の負担を軽減できないか。 ・健康相談・教育相談活動の充実を図る。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月20日（書面開催）

・コロナ対応については健康チェック等にかかる先生方の負担はとて多かつたのではないかと思います。先の見えない戦いでありなかなか難しいと思いますが、生徒が自主的に対策をとれるようになると素晴らしいと思います。

様式2)

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書【最終報告】

関市立関商工高等学校 定時制課程 学校番号 63-10

I 自己評価

1 学校教育目標	「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 機械科	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・もの作りに興味があって入学してくる生徒は、ほとんどいない。保護者も機械の技術や技能を身に付けさせたいという気持ちよりも、4年間で高校を卒業させたいという思いが強い。専門性の高い工業教育よりも安全教育・基礎基本を重んじた生徒の育成を図る指導を実践し、保護者の期待に応えたい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科指導の充実 ◇基本的生活習慣の定着を図る生徒指導 ◇一人一人の生徒をよく観察し、全職員で共通理解を図り協働して生徒の育成にあたる。 ◇家庭や雇用主との連携を強め、生徒への応援態勢を確立する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員会議、機械科会議、工業科研究会、週3回の職員連絡会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 工業人としての望ましい態度や習慣の育成 (2) 事故防止と安全・衛生教育、安全管理態勢の確立 (3) 職業指導の推進	(1) 授業規律の励行と欠席欠課時数の減少 (2) 挨拶ができ学習環境の保持ができる (3) 家庭や職場における生徒の様子が把握できる。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・あらゆる機会を捉えて生徒一人一人を正しく深く理解し、信頼と愛情のある指導に努め、個々の生徒に応じた指導と助言を行う。 ・学習環境の整備と清掃と安全に行動できるための安全管理・安全教育（整理、整頓、清潔、清掃等）の徹底 ・勤労観・職業観の育成（勤労学生の推進）と各種資格検定への積極的な取り組みと指導体制の確立	①職員が組織的に取り組み、互いの理解や協力が得られたか。 ②挨拶など生徒の基本的生活習慣が向上したか。 ③授業規律が保たれ、生徒の積極的な授業参加が見られたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	総合評価 A (B) C D	
<p>○本年度から1年生全員が計算技術検定3級に取り組み、3名の合格者を出すことができた。また、基礎製図検定も3年生・4年生各1名の合格者を出すことができた。</p> <p>○本年度は新型コロナの影響で資格部そのものが活動できなかったが、各教科担任の熱心な指導により、基礎製図検定、計算技術検定3級で複数名の合格者を出すことができた。</p> <p>▲本年度は新型コロナの影響で授業開始が遅れたり、出席停止が続いたりしたため学習活動が不十分であり期待したような成果が出ていない。意欲が希薄な生徒が多い中で、目標を持たせ結果を出すことで意欲を高めていきたい。</p>		
12 来年度に向けての改善方策案		
<p>・本年度は新型コロナの影響でずっと短縮授業が続いたためやむをえないが、本来の45分通常授業に戻ったならば、定期考査や資格検定試験1週間前などに5分短縮にさせていただき、放課後30分ほど個別指導の時間を設けていただき、成績不振の生徒の個別指導や資格検定試験前の補習等の時間を確保していきたい。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月20日（書面開催）

・生徒達が協力して何かを成し遂げる(例えばクラス単位で)ということを企画し、それに向かって活動できたらそれ自体が総合的、全人的な教育になると思います。